

## ①研究者紹介

弘前大学大学院保健学研究科  
橋本 美亜

大学病院で勤務した後、大学教員になったことをきっかけに大学院に進学しました。病院勤務時代にかかわった小児がんの子どもやそのきょうだい・家族への支援をしたいと考え、博士前期課程では小児がんの子どものきょうだい児への支援をテーマに研究しました。博士後期課程から小児がんの子どもの闘病意欲をテーマに研究に取り組みました。今回ご紹介する論文は博士後期課程の研究の最初に取り組んだ「日本における入院中の子どもの闘病意欲の概念分析」についてまとめたものです。本研究の結果をもとに、小児がんの子どもの闘病意欲について研究を実施しました。

本研究は、小児がんの子どもにだけ特化した内容ではありませんが、概念分析した文献には小児がんの子どもの対象とした文献も多くありました。そのため小児がんの子どもの闘病意欲と重なるところもあると考えますので、小児がん看護領域でも活かせるかもしれないと思っています。

## ②国際誌投稿へのTips

国際誌への投稿は、今回が初めてでした。そもそも英語で論文を書くこと自体が初めてで、何から始めたらいいいのか全くわかりませんでした。幸い、一緒に研究に取り組んでくださった先生方からご指導いただける機会が多かったこともあり、どんな雑誌に投稿するか、英文校正はどうしたらいいのか、など相談しながら検討することができました。

研究方法を概念分析としていたので、過去に同様の研究方法の論文を掲載しているかを参考に投稿する雑誌を決めました。投稿したあと、最初の査読結果が来た時に、コメントの多さに衝撃を受けました（しかも当然ですが、全部英文！）。査読者のコメントの意図をしっかりと理解できているのか、悩みながらの修正でした。今思えば、それだけじっくり私の書いた論文を読んでくださったのだと有難い気持ちになるのですが、当時は、どうやって対処しようかと焦る気持ちばかりだったように思います。査読へのお返事の期限はそれほど長くないので、後回しにしないですぐに取り組むことが大切でした。

### ③論文概要

Title:

Analyzing the "Toubyou-iyoku" concept to determine coping with illness among hospitalized children in Japan

日本における入院中の子どもの闘病意欲の概念分析

Author:

Mia Hashimoto, Wataru Irie, Akiko Sugahara, Yuko Nagoya, Hitoshi Shiwaku  
橋本美亜、入江亘、菅原明子、名古屋祐子、塩飽仁

Journal:

Journal of International Nursing Research (JINR) Volume 4 Issue 1 2025

## ④研究の概要

目的：

「闘病意欲」とは何を意味し、何が影響し、日本の入院中の子どもにどのような影響を与えているのかを明らかにすること

方法：

Walker & Avantの概念分析の手法を用いた

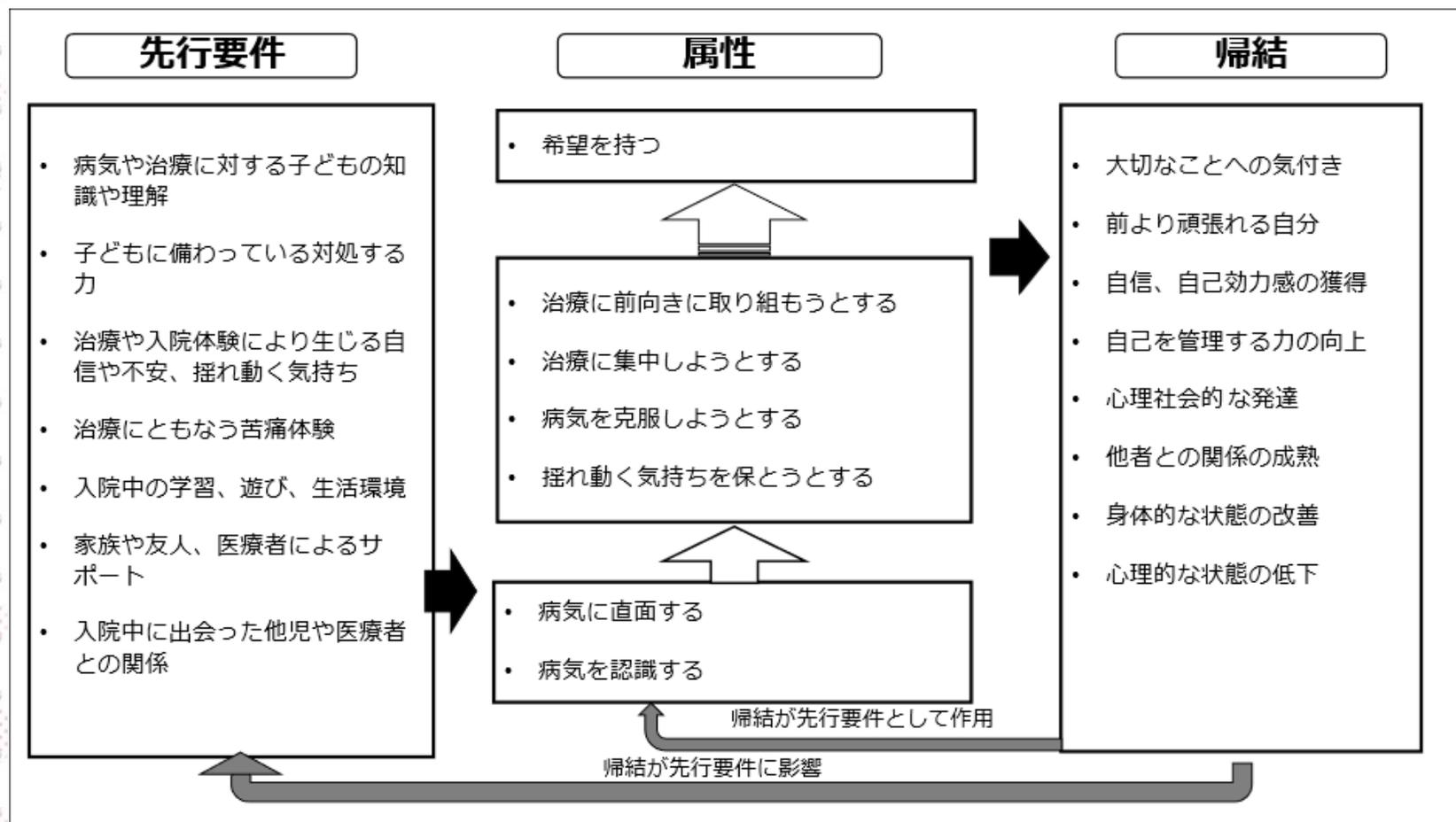
分析手順：

①概念の選択、②分析の目的・目標の決定、③概念の全用法の特定、④属性の定義、⑤モデルケースの特定、⑥追加ケースの作成、⑦先行要因と結果の特定、⑧経験的言及の定義の8段階の手法を用いて、連続的・反復的に検討・分析

結果：

国内文献を対象に「入院中の子どもの闘病意欲」について概念分析を実施した  
先行要件として7つのカテゴリー、属性として7つのカテゴリー、帰結として8つのカテゴリーが得られた。そして、「入院中の子どもの闘病意欲」について定義した（次ページ）

## 【日本における「入院中の子どもの闘病意欲」の概念図】



日本における  
「入院中の子どもの  
闘病意欲」

定義

「自身の本来持っている理解し対処する力をもとに、病気や入院生活にともなう経験のなかで、病気や治療に向き合い、揺れ動く気持ちを持ちながら受け入れようとし、治療を積極的に頑張り維持しようとする思い、そして希望のこと」